

## 令和元年度 第3回 鳥取市総合企画委員会 議事概要

|       |   |
|-------|---|
| 日 時   | 令和2年2月17日(月) 10:00～12:00  |
| 場 所   | 鳥取市役所 新本庁舎6階 会議室6-3、6-4   |
| 出席委員  | 井上裕章委員、上原幸恵委員、小谷加代子委員、塩谷義勝委員、下田敏美委員、杉本由美子委員、田中節哉委員、浜江和恵委員、林 由紀子委員、森原昌人委員、森本孝行委員、矢野順治委員、山根滋子委員、山本暁子委員、吉田正委員、吉田雅之委員 |
| 欠席委員  | 河上友香委員、坂本 直委員、清水雄作委員、山田康子委員   |
| 鳥 取 市 | 市長・副市長ほか関係部局長、政策企画課、創生戦略室   |

### <議事内容>

- 1 開会（高橋企画推進部長：会議成立確認）
- 2 市長あいさつ
- 3 新任委員紹介
- 4 委員長・副委員長選出 委員長に林由紀子委員を、副委員長に坂本直委員を選出
- 5 報告 第10次鳥取市総合計画基本構想の変更について  
塩谷政策企画課長が資料1にもとづき説明し、委員からの質疑はなかった。

### 6 議題

#### (1) 鳥取市民アンケート調査等の結果概要について

資料2～資料2-2に基づき、塩谷政策企画課長が説明。また、坂本直委員から提出された「令和元年度第3回「鳥取市総合企画委員会」 各報告に関するコメント」を添付資料として提示し、塩谷政策企画課長が音読した。

#### [質疑応答]

○矢野委員 鳥取環境大学は、県内就職率を上げるというのは、一つの非常に重要なミ

ッションで、県からも市からもミッションをいただいております。学内でも常時議論をしているので、非常に我々にとって大事なアンケート結果ですので、幾つか教えていただきたいところがあるんですけども、最初の市民アンケート調査の結果概要の2ページですけども、やっぱり気になるのは、10代、20代の方の現住地への永住希望が30%、31.3%がいいえとお答えになっているんですが、ここは前回の数字を教えていただけますでしょうか。

次に2問目、大学生のアンケート調査結果概要ですが、うちの学生にアンケートしていただいたということですが、鳥大の人材も鳥取県にとっては非常に重要な人材だと思います。これはうちの大学だけではなくて、同じようなアンケートは鳥大にいる学生にもやはりぜひともやられるべきだろうと思います。これは質問ではありません。

それで次の2ページからですが、これ全部に共通するんですけども、私も環境大に来て5年になって、ゼミ生を5年、世の中に出しております。その経験からすると鳥取県出身、鳥取市出身の学生の考え方とそれ以外の人はやっぱりもう最初から全然違います。ここはそれを一緒にした結果が出されているんですけども、これは統計的には、その2つの層は属性が全く違うので、やっぱり鳥取県内、鳥取市内、鳥取県外でここにあるデータはグラフと分析等々をお願いできれば非常にありがたいと思います。これもコメントというよりはお願いになります。

次は、鳥取市には定住したくない、高校生のアンケートでも鳥取市には定住したくない理由で交通手段が出てきて、市民の方のアンケートの中にも交通手段というのは非常にハイライトが当たっています。私も毎日バスで大学を往復しているんですが、これはバスの本数とか電車の本数が少ないということなのかなというのと。ただ、20代、30代の人も交通手段を不満の理由の一つ大きく上げている人がいらして、このところはよくわからないところがあるので、教えていただければありがたいかなと思います。

最後ですが、高校生へのアンケートですが、これ3ページと4ページ、両方関係するんですけども、アンケートをとられるときに県外へ就職とか進学とか、県内へ進学・就職というアンケートをとられているんですが、鳥取に希望する大学と企業があるというアンケートの聞き方をされているんですが、これは2問に分けるべきだろうと思います。鳥取に希望する大学があるというのに対する答えと鳥取に希望する企業がある、これは全然違う話になるので、これを一緒にしてしまうというのはちょっと

私は残念かなと思います。これもコメントではないですけども、また5年後にこのアンケートをとられるということであれば、ここは設問を分けられたほうが若い人の考え方を把握する意味ではよりよいアンケートになるだろうと思います。

今回出ている結果で見ると鳥取に希望する大学と企業があるで29%から57.4%ということで、これはどっちに解釈したらいいのかというのが、鳥取環境大学の評価が少し上がったということなのか、いい会社が鳥取に来たという話なのか、ここは忌憚なく本音の部分をお教えいただければと我々考えるときに非常にありがたいと思いますので、これを教えていただければと思います。よろしくお願いします。

**○林委員長** それでは、市民アンケートのことと、それから大学のアンケート、それから高校のアンケート、それぞれで御質問がありました。お願いします。

**○塩谷政策企画課長** 御質問、御提言ありがとうございました。

まず、前回の永住の希望の数値ですが、まず2ページの先ほどの現住地への永住希望についての設問ということで、10代と20代でいいえと答えているのが、10代が30%、20代が31.3%です。前回は10代が30.5%、それから20代が26.4%でございます。10代については少し、0.5ポイント減って、20代はちょっと増えているという状況でございます。

それから2つ目の鳥取大学にもアンケートをとってはというところでございます。おっしゃられるとおりで、今回は鳥取環境大学だけをさせていただきましたけれども、次回は鳥取大学にもアンケートをとりたいと思います。ただ、傾向としましては、やはり県外出身者が多いという傾向は環境大学も鳥取大学も同じような状況ではあります。

それから次のアンケートのとり方といいますか、県内、市内の学生と、それから県内の学生は別に統計をとったほうがいいのではないかと。こちらでも検討したいと思います。

それから4番目の交通手段、若い人も不満を持っているというようなところで、こちらはこういったこととということです。交通の件ですので、都市整備部長さん、交通手段に不満がある、若い世代も高齢の方もいるというようなことでございますが、その理由ということをお願いできますか。

**○綱田都市整備部長** 都市整備部長の綱田でございます。詳しいデータがあるわけではございませんので、正確かどうかということはありませんけれども。全般的な公共交通

の状況でございますけれども、利用者の減ということも当然ありますが、最近では運転手さんの確保に窮しておられる。これは路線バスの運転手さん、またタクシーの運転手さんも年々高齢化が進んで、新しい、若い人の参入というのが少ないという構造になっていると聞いております。このことから路線を維持することもだんだんと難しくなっている。その結果としてダイヤの数が減ったりとか、路線自体が縮小したりということもございます。そういった意味での利便性というのがだんだんと下がっているということが一つ理由としてはあるのではないかと思います。以上です。

**○塩谷政策企画課長** ありがとうございます。

それから次の御質問、御意見で鳥取に希望する大学等や企業があるという設問ですが、これは2つに分けたほうがいいのではないかとということで、こちらも次のアンケートのときには検討したいと思っております。

高校生のアンケートの鳥取に希望する大学等や企業があるというのが、前回29%から今回57.4%に上がっているということの理由ということでございます。詳しい分析まではまだ行っておりません。ただ、やはり鳥取環境大学の地元志向というのものもあるのかなと思っておりますので、例えば経営学部ができましたし、そういったところで社会科学的なことを勉強したいという学生が鳥取の大学を選べるという状況であるのかなと思っております。こちらは詳しくはまだ分析は行っていません。以上です。

**○林委員長** ありがとうございます。

矢野委員さん、よろしいでしょうか。今後のまたアンケートのときに生かしていただくというような方向で。

**○矢野委員** ありがとうございます。

**○林委員長** では、そのほか皆さんからいかがでしょうか。

**○森原委員** 2点意見、要望を述べさせていただきたいと思っております。

まず、市民アンケートのやり方ですが、指摘もありましたけれども、10代、20代、若い世代のサンプル数が少ないために全体の数字にやっぱり偏りが出てくるのではないかなという気がしております。どうしてもこういうアンケートですから年配者の方の回答が多くなるのは仕方ないんですけれども、例えば新聞社の世論調査では、男女別、年代別、それから地域別、市町村別に均等に有権者で割って、その数を確保するという方法で、100人のまちではないんですけれども、ほぼ平均した結果が出るように工夫しております。郵送による回答ですので、なかなかそういう年代別とか

とりにくいと思いますけれども、やっぱり正確にニーズを把握するためにはアンケートの方法も次回以降再検討していただきたいと思います。

もう一つは、市の中心部の方と新市、旧町村部、例えば佐治町の方のニーズはやっぱり違うと思いますので、そのサンプルをとることも必要ですし、その分析の中に旧市と新市の思い、ニーズを分けるような分析結果もしていただきたいと思います。

それからもう1点、先ほどの鳥取環境大の先生も言われましたが、大学生と高校生が鳥取市には定住したくない理由として、買い物・レジャー・交通手段の日常生活の利便性が少ないというのが前回よりも増えていますし、断トツこれが理由ということが今回よくわかったと思います。よくUターンとか地元定着では、所得が大都会よりも低くて、雇用する企業も少ないというのが理由になっていますけれども、むしろやはり鳥取市全体の魅力づけが若者の定着には不可欠という結果だろうと思います。このあたり次の総合計画なりふるさと創生の戦略の中でどういうふうに位置づけていられるのか、これは市長にその方向性を示していただきたいなと思います。この2点です。

○林委員長 ありがとうございます。

最初の分は今後に生かしていくような話でよろしかったですかね。

○森原委員 そうですね。

○林委員長 では、最後の鳥取市の魅力づくりについて、市長さんにという御指名でしたので、お願いできますでしょうか。

○深澤市長 利便性で、施設が少ないとかということで、むしろ市全体の魅力を今後、高めていくことが不可欠ではないかと、次の11次総合計画、また創生総合戦略にそのことを盛り込むべきではないかといった御意見だったと思います。私も全くそのとおりだと思います。若い世代の方に魅力を感じていただく、まちの魅力を高めていくということが移住定住の促進や、また県外に出られても帰ってきていただく、そのことに必要だと考えております。結婚から妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援をしていく、それは基本的なことだと思っております、やっぱりまちに魅力を感じていただくということが非常に重要だと思います。

ただ、これが具体的に例えばアミューズメント施設とか利便施設がふえたから魅力が高まったと、そういったこともあるかも知れませんが、もっと長い期間で取り組んでいく、少しずつこの鳥取市としての魅力を高めていくと、不断の取り組みが必要

ではないかと思っておりますので、このことについても次の11次の総合計画あるいは第2次となります鳥取市の創生総合戦略の中にしっかり位置づけて、これから引き続き取り組んでまいりたいと思っております。以上でございます。

○林委員長 ありがとうございます。

○井上委員 まず、今回の市民アンケートをとられて、そのアンケートが今の総合計画、総合戦略の一つの評価として市民の方がどう思っているかというものであるかなと考えていますので、鳥取市さんとしてやってきたことの成果であるとか、やられたことがそのアンケートでうまくいい回答が出てきているもの、そうでないものがあるかと思えます。その辺の評価をどうされていらっしゃるか、どう考えていらっしゃるかといったところを一つお聞かせいただきたいと考えています。

あと、こちらは提言、提案ですけれども、アンケート結果から出てきた重点分野の課題といったところで給与の課題とか、雇用の課題、あとは医療サービス、買い物等々ございますので、そういった面では次期の総合計画に反映させるべき分野であるというふうに考えています。私も感じております。

そういった中で高齢化といったところは今後も進捗していくというのは避けて通れないという中で、どういう高齢化を目指していくのかと。要は健康年齢をどう引き上げていくのか、医療、介護、そういったところに係る予算といったのも年々増加している中で、では、どう抑えて、どう健康な高齢者の方を育てていくのか、また増やしていくのかといったところは施策の一つ盛り込んでいただきたいと考えていますし、雇用の面でいくと事業者が減っていくという中で、やはり魅力のある会社が当地にないと若者も結局は戻ってこないということになります。そういった意味では事業承継といったのは一つ大きな課題として、金融機関としても重点的に取り組んでいる分野でございますので、そのあたりもさらに連携して対応していく施策として盛り込んでいただければと思います。

あとは大学生のアンケートから、鳥取環境大学さんの魅力といったものは着実に上がってきているのかなと考えております。

反面、地域に行きたい大学、就職したい企業がないというアンケート結果も増加をしているので、この辺の相関はどうかなというのは若干わからない部分があるんですけども、ただ、間違いなく環境大学さんの魅力は上がってきているというふうに捉えることはできると思いますので、鳥取県さんとの連携にもなると思えますけれど

も、定員の増加であるとか、新たな学部の新設といったようなところも少し検討していてもいいのではないかなというふうに感じました。

○林委員長 それでは総合的な話になりましたけれども、回答できるところはお願いしたいと思います。

○塩谷政策企画課長 御意見をありがとうございました。

まず、1番の今回のアンケートが現在の第10次の総合計画の市民の皆さんの評価ということで、どのように評価しておられますかというような御意見でございます。

市民アンケートの次の開いた2ページのところでいきますと、全体では永住希望といますか、住み続けたいという方が8割を占めておるといような状況でありますので、住みたいとっていただける、そういうまちとっていただけているのかなというところで評価はできるのかなと思います。

第10次の総合計画が令和2年度までということですので、最終的には令和2年が終わった時点で全体の評価というのは出てくるかと思えますけれども、このように住み続けたいとっていただける、こういったまちづくりを進めていきたいと思えます。

○岩井健康こども部長 健康こども部の岩井でございます。健康な高齢者をどうやって増やしていくかというお尋ねでした。鳥取市では、とっとり市民元気プラン2016を策定し、それに基づいて生活習慣病の予防、重症化予防と、平均寿命と健康寿命、それをいかに近づけていくかということで今、各種施策をやっておるといような状況でございます。

この元気プランでございますが、令和3年に新しい計画を立てるようにしておりますので、また令和2年で十分検討しながら新しい施策も考えていきたいと思っておりますので、また令和2年で十分検討しながら新しい施策も考えていきたいと思っております。

○林委員長 ありがとうございました。

そのほか雇用の関係で魅力のある会社づくり、これはそれぞれの会社さんの御努力もありますが、連携した施策というようにお話もありましたが、ここの点についてはいかがでしょうか。

○浅井経済観光部長 経済観光部長の浅井でございます。魅力ある働き場所の確保につきましては、これまでも成長産業分野におけます企業誘致等に力を入れてきておるところでございます。鳥取市内は、まだ工業団地の空きがございますので、引き続き企業誘致等に努力をさせていただいて、若者の方に魅力ある雇用の場所の創造に努め

たいと思っております。

また、井上委員のお話の中にもありました事業承継の関係につきましても大きな課題であると思っております。この事業承継に対する支援につきましても、県、それから関係機関等で事前の相談の場所というような窓口等は既に設置されているかと思っております。また、新しく事業承継された方に対しては、具体的にその操業等の支援策といったものもございます。したがって、実際に事業後継者がおられない方が、例えば買収でありますとか合併、M&Aの手法によって第三者に譲渡されたりというような具体的な手続を起す際の、ここでの支援が必要ではないかということで、新年度にはこういった部門での市独自の予算を確保して取り組むこととしておりますので、次期総合計画におきましてもこういった観点の支援策というものの充実を図っていきたいと思っております。以上です。

**○林委員長** ありがとうございます。

あとは環境大学の関係で魅力が高まっているということもお話しされましたが、今日も矢野先生が来てらっしゃいますので、今後またいろいろと取り組まれるということで、もうこれは御意見ということでさせていただきたいと思っております。

**○塩谷委員** 市民アンケートの結果でちょっとお尋ねしたいんですが、4,000人の総数に対して回答1,672人、これは回収率と同じということでしょうか。これは送付に対して回収率がものすごく低いと思いますが、何かそれに対して努力とか、もうこれはどうしようもないということでしょうか。

**○塩谷政策企画課長** 郵送でお送りして送り返していただくという手間もありますし、今回新たな設問ということで重要度を加えさせていただきました。結構質問のボリュームが増えてしまっていて、そういった部分で少し回答率が低くなったのかなという反省もありますが、重要度というのでも聞いてみたい項目ではありました。やはりちょっとアンケートのボリュームが増えてしまって回答が減ったのかなと感じております。

**○塩谷委員** では、これは仕方ないということですね。

それともう一つお尋ねしたいんですが、住みやすさの満足度というところの4ページ、5ページですが、4ページの37番、文化・芸術施設の整備というのと、5ページの重要度が低いというところに文化・芸術施設の整備についてが載っております。文化・芸術というのは割と誰から見ても地味なほうで、スポーツみたいに派手さが無いと思いますが、私はここに文化・芸術の分野で出席させてもらっているので、この

ことに関してお願いがあります。市長の顔を見るたびに文化施設の充実をとお願いしているんですが、5ページの下グラフに改善分野というところに載っております。もう文化センターも福祉会館も市民会館も老朽化しておりますので、何とか早急に施設の整備をよろしくお願ひしたいと思ひます。ここでお願いしておきます。どうぞよろしくお願ひします。

○**深澤市長** 文化・芸術施設の整備等について非常に重要度が低いあたりにあるのではないかとありますが、文化・芸術の振興というのは、鳥取市も条例を制定して今まで取り組んできておるところであります。やっぱり非常に大切なことではないかと思ひます。先ほど森原委員より御質問をいただきましたまちの魅力を高めていく、そのようなことにも非常に関連のあることだと思っておるところでありまして、文化・芸術について非常に熱心に取り組んでいらっしゃる方がたくさんいらっしゃる、そのようなまちであると考えております。

施設の老朽化等についても話をいただきました。福祉文化会館、文化センター、市民会館、いずれも少しずつ老朽化が進んでいるということでありまして、公共施設の更新問題とも少し関連をいたします。新しい時代にふさわしい、そのような施設を整備していくということは必要であると思ひますし、例えば複数ある施設を一つに統合していく、あるいは異なる施設を一つにする複合化と、いろんな手法があるわけあります。そういった公共施設の更新問題も念頭に置きながら整備をしていく、改修をしていくということは非常に重要だと思っております。文化・芸術の拠点として多くの皆さんに御活用いただけるような施設は鳥取市としても非常に必要であると、大切であると考えております。

○**塩谷委員** ありがとうございます。それと、もう1点いいですか。

これは報告ですが、以前この会議で交流情報ガーデンの質問をしたことがあります。僕の知人の息子が関東のほうからこちらに帰りたいという話があったもので、情報ガーデンという組織が鳥取市役所にあると言ったら、あっ、そこにお世話になっておりますということで、大変いい組織がありますねと感心しておりましたので、報告させていただきます。大変ありがたく思っております。以上です。

○**林委員長** ありがとうございます。

○**吉田（正）委員** 連合鳥取の吉田といいます。市民アンケート、資料2の12ページですが、市民アンケート調査は数値目標として達成状況だということで、先ほど御

説明があったんですが、ちょっとよくわからないもので教えていただきたいと思ひます。現状、基準値、これは平成26年度の数值だというふうに認識しておりますが、それをもって令和元年、今回の市民アンケートの調査を集計してのまとめた数字だというふうに思ひます。この目標値は、どのような観点で目標値を設定されたのかを教えていただきたいと思ひます。

その中で、施策が6項目ございますが、このアンケートの調査の部分について、これ網羅された表なのかどうかということもちょっとお聞きしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。以上です。

○林委員長 今の点についてお願ひします。目標値をどういうふうに設定したかということと、これは第10次の計画をつくったときの目標値ですね。

○塩谷政策企画課長 御質問ありがとうございます。12ページの10次の総合計画の基本目標のところの御質問でございます。目標値の考え方というところで、第10次の総合計画は平成28年度から開始しており、その基準値として平成26年の数值というのがこちらに載っております。それで市民アンケートの調査結果を数值目標としているのがこの6項目なんですけれども、アンケートは5年に1回しか実施をいたしませんので、令和元年度の目標というのは、この施策を進めるに当たって元年度にはこの目標値を達成したいというところで各課が設定したところなんです。それについての詳しい根拠というところまで私が答えを持ち合わせておりませんので、そちらはまた御回答させていただきたいと思ひます。

○林委員長 では、今後ということで。ありがとうございます。

○浜江委員 浜江です。先ほどアンケートをとるに当たって年齢別、それから性別、地域別など考慮すべきではないかという意見があつて、私も賛成です。

私は、青谷地域というところから出てきているので、ちょっと地域の実情についてお話ししたいと思ひます。公共交通についてですが、先ほどの交通の利便性が鳥取市の魅力を下げている一つの要因ではないかという話があつたのですが、私たちのように郡市のほうに行きますと利便性という問題ではなく、それ以上に生活がどうなるのかなというところに大変危機感を持っています。それでいろいろとお話をいただいて、例えば乗車率を上げよとかおっしゃるのですが、実は青谷の一番奥から青谷のまちに買い物に出るとします。そうすると何と片道470円かかります。大体バスを利用される方は高齢の方が多いですので、その方にとって往復約1,000円の費用という

のはもう生活を脅かす額になるのではないかと思います。

市からも提案をいただいて、地域で協力していい方法を考えていこうではないか、それを支援するよという話をいただいて、ともに考えていきたいと思うのですが、そこに立ちほだかってくるのが人材の問題なんです。ここのアンケートにも地域については大変満足しているけれども、反面、重要と考えていないというこの質問にちょっとびっくりしました。でも考えてみたら本当にそうだなと。特に若い人、若いといっても、中高年までいろいろと地域の話をする、いや、まだ仕事をしているからといって必ず役は逃げられます。もう仕事をしているからといって逃げられる時代ではないと思うのですが、でも70歳ぐらいまでの方が、仕事があるからといって逃げられます。そうすると地域で支え合おうといったときにそれから上の年代が仕事をしようと思って70を超えてしまうと、今度は例えば運転免許の問題になるとお互いに助け合おうといったってもう免許証返納の年齢が近づいてくると。そのあたりでやっぱり地域で何とかしようという機運を、地域も頑張るんだけれども、実態を見ながらもう少し年齢の低い方から頑張っていて、お互いに協力しようというふうになっていただけたらなと思います。

大学生さんとかのアンケートにも田舎特有の人づき合いが嫌だと書いてあったり、それから家庭に帰ってみると親と暮らすのが嫌だ。なぜならば気を使うし、うるさいし、反対に親のほうも若い人に気を使うからという形で、本当に大事だとは思われながらもこういう交流が薄れてきているというのが実態にあります。よく地域で何とかしてくださいとたくさん提案をいただくのですが、地域の実態はそれであるということを知っておいていただきたいです。それと、この前高齢者のスポーツ大会に行ってきました。地域の選手になってくれと言われて出てみましたら一番若いほうなんですけれども、数年前と比べると、高齢者は増えたのに参加者は半分に減っているそうです。実は60歳から参加できるのですけれども、選手をやれと言うと先ほど言ったように仕事があるからと断られて、たまたま仕事を持っていない私たちであるとか、それからもっと高齢の方とかが参加するような実態になっています。やっぱり地域で地域を支える力が大変な状況になっているということをお伝えしたいと思います。

もう一つ、公共交通機関の交通の面で青谷としてお願いしたいことがあります。青谷は5校小学校が統合されました。その折に子供の交通手段は確保する、絶対条件だと思っていたのですが、もしこのバスがなくなったとしたら子供たちは通学できませ

ん。そこでスクールバスというものをお願いしたいなと青谷のみんなで話をしています。せめて絶対に必要なのは統合したときの条件である子供の交通確保というのをお願いしたいと思っています。長期休暇期間中の定期券の補助はなくなると聞いて、えっ、長期休暇中、学校に通わないから交通費の補助がなくなる。学校に通うだけが教育なのかな。そのあたりも統合したときに聞いたところでびっくりしたのですが、今ここに来てこの交通問題でスクールバスの確保を切にお願いしたいなと思って意見を言わせていただきました。大変狭い意見ですけれども、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

**○林委員長** 地域が地域で支えるというのが非常に大変だという実情をお話いただきました。

それとスクールバスの関係は。お願いします。

**○中村教育委員会事務局次長兼教育総務課長** 教育委員会です。おっしゃるとおりで、スクールバスの確保は重要だと考えております。

ただ、先ほど都市整備部長からありましたように、今、私たちも、では、お金を払うから何とかと思ったら、業者さんの人材がそもそも、運転手さんがいないということが新たに出ておまして、そのあたりのことは本当に重要な問題だと思っております。このたび江山地区という地区が2つの小学校と1つの中学校が一緒になって義務教育学校ができるということになって、さあ頑張ろうと思っていたそばから一つ路線が廃止になるということになりました。こちらは地域の方が何とか助け合って車を出してくださるということで話がついたんですけれども、なかなかそういうことが厳しい状況になっております。ですから今みたいなことがあるときはなるべく早目にそのあたり地域の方々とも話し合いながら、もちろんそれからバス会社の方ともお話をしながら路線確保には努めてまいりたいと考えております。

**○浜江委員** ぜひよろしく申し上げます。

**○林委員長** そのほかいかがでしょう。

**○山本委員** このアンケートというのは、第10次総合計画の見直しと11次のための構想に使われるというふうにはわかってはいるんですが、資料を拝見していて、アンケートはこうでした、こうでしたというだけで、この後どう使われていくのかなというのがちょっと具体的に見えていなくて。この資料を最初、郵送で送っていただいたときに皆さんがおっしゃったように、まだ分析が全然足りていないなとすごく思い

ました。このデータをどう使うの、どう反映されるのかと、問題がどう見えているのかがよくわからないというのが率直な意見だったので、そこを教えていただきたいというのが一つあります。

また別の話になるんですが、塩谷さんがさっき回収率の話をしていましたが、東京とかで働いていたときの経験からすると、40%以上あるので、鳥取市民は優秀だなとすごく思いました。多分これは何の見返りもなくアンケートをしてくれているんだと思いますが、しかも郵送で、オンラインでチェックもできないというような状況でやってもらって、鳥取市民ってすごく真面目だなと。

こっちにUターンで帰ってきてすごく感じるのが、市役所とか県とか、そういうちょっと権威的なものが大好きな、ちょっとそういう市民性があるなとすごく感じているんです。市政で、やっぱり税金はすごく限られていて、若い人も少ない、どんどん収入も少なくなっていくという状況で何かうまく回していくもののパワーになるものがないかなとずっと考えていたんですが、一つ、この名誉力というものが使えるのではないかなと思っています。だから見返りはお金とかではなくて、名誉とか、褒められた、あの市長さんに褒められたみたいなそういうものって結構大きな原動力になっていくのではないかなとすごく感じています。ちょっとうまく言葉で説明できなくて恐縮ですが、そういうものも具体的に使って行って、うまく回していけたらいいのではないかなとちょっと考えている、一つの意見としてとっていただければと思います。

最後、Uターンの立場として、アンケートの資料2-1と2-2についてですが、特に2-2ですが、高等学校3校とあります。どちらの高校なのかなというのがすごく気になっていて、これでも県内で就職、県外で就職とかいろいろアンケートがありますが、例えば商業と工業とか、そういうふうに具体的に技術を学んでいくところと進学メインでしている西高、東高、青翔開智、クラークと、いろいろあると思いますが、その生徒によってもう全然違うと思うんですね。

6次産業に力を入れられているというお話なので、まず商業とか農業の高校になると、就職ですとか、そういうの関係ないけれども、そういうところに行きたいという方が多いと思うので、まず20代を捉える、ここに定住してもらおうというのであれば、そこでまず一つ区切りを切って、就職率がどうなのかというのを確認するのが必要だと思います。進学校ですとやっぱり偏差値の高い大学に行って、企業にという傾向が高いと思いますが、その方がUターンで帰ってこれるのかどうかというところが重

要になってくると思いますけれども、そういうことを踏まえた上でアンケートを策定し直して、分母で割って、パーセンテージを出したほうがいいのではないかな。そうすると具体的な施策というか、対策が出てくるのではないかなと率直に感じました。

質問は一番最初の部分だけですが、お願いします。

**○塩谷政策企画課長** ありがとうございます。まず、このアンケートをどう使うのかというか、そういった御質問だったと思います。委員さんがおっしゃられたように、第10次総合計画の総括的なものに使いますし、それから次の第11次総合計画の策定に向けての基礎資料としても使用します。来年度が第10次総合計画の最終ということで、その前年にこのアンケートをとっておるものでございます。

今回まだデータとしてこういうものが、こういう傾向があるというところまでしか出していないんですけれども、この先もう少し整理をいたしまして、これ以外にも自由意見も多くありましたので、そういった意見も参考にしながら次の11次総の策定に向けて進めていきたいと考えております。次のスケジュールの説明が資料3であるんですけれども、4月には骨子案をつくりたいとは考えておりますので、そういったところにアンケート調査の結果なんかも盛り込んでいけたらと考えております。

もう一つの御質問で、高校3校はどこかということでございます。高校3校は、鳥取東高と、それから鳥取商業、それから城北高校と、この3校にアンケートをとらせていただきました。

**○林委員長** よろしいですかね。そのほか御質問等ございましたらお願いします。

どうぞ、小谷さん。

**○小谷委員** 私も地域のほうから出ております。浜江さんが言われたことはよくわかります。このアンケートの結果というのは、鳥取市全体のものになっているんですけれども、それぞれの地域によって変わってくると思います。中身がちょっとずつ変わってきて、市民が求めているものというのは旧市街地と新市域ではちょっと違ってくると思います。それぞれのまちづくり協議会がありますので、次の施策に反映するためにはまち協でもアンケートをとってもらえば、もう少し市民に届く施策が策定できるのではないかなと考えます。そのようなことができれば、それぞれまち協にこんなアンケートをお願いしたいと言っていたいただければうれしいかなと思います。

それからもう一つ、いろんな人から質問も出ていて、住みやすさの重要度の中で必要度が低いものの中に自治会やサークルなどの地域の活動についてとか、それから文

化・芸術施設の整備についてとあるんですけれども、一番ここのところが人が豊かに生きるためには必要なことではないかなと考えていまして、こういうものが住みやすいよというところの重要度の中に入ってきたらありがたいなと思うので、そういう施策もどんどん進めてほしいと思います。

○林委員長 最初のまちづくり協議会にアンケートをとったらどうかという御提案ですね、このあたりはどうか。

○塩谷政策企画課長 御意見ありがとうございます。

次の資料3のスケジュールにも出てくるんですけれども、各地域におきましてもこの策定段階では説明会であるとか、御意見をいただくような機会というのを設けるように予定をしておりますので、そういった地域の御意見も伺う機会というのはあると思います。それがアンケートという形でできるのか、その場で意見交換というような形でできるのかということがありますけれども、地域の御意見も伺っていきたくて考えております。

○林委員長 住みやすさについては、もう少し具体的に中身をということですかね。よろしいですか。

それでまた御質問していらっしゃる方は、それぞれ一言ずつお話ししていただいて、まとめて事務局で御回答いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。それぞれ皆さんから。

上原さんからいかがですか。このアンケート以外のことでも結構ですので、御要望とか何かがあればお話しいただけたら。

○上原委員 皆さんの意見の中でしていただきたいことはたくさん言っていたので余り言うことはないかなとは思いますが、この役になってからまだ1年もたっていない状況でして、言葉もわからないことがたくさんあります。その中で、ここで皆さんが意見していただくことによって、この後、若い世代につなげていけることがいっぱいあればなと思います。

話は変わりますが、うちの地区の辺では砂丘があります。外国人の方が砂丘にお見えになるときにスマホで検索すると福部駅でおりるとというのが一番近く出るみたいでして、福部の駅でおりられて、そこから歩いて鳥取砂丘まで行かれるという方が結構いらっしゃったみたいです。そういうのも考えますと、アクセスはどういうふうにしたら交通の便もよくなるのかなとか、そういうことも考えていただいて、観光も増や

していくことによって鳥取市が活性化するのではないかなというところ考えております。以上です。

○林委員長 そしたら下田さんはいかがでしょう。

○下田委員 鳥取市が優先すべき施策の中で、やはりアンケートに答えられる年齢の関係もあるかと思いますが、高齢化対策とか子育て支援対策等が入っておりますけれども、今、実態としては、雇用で、事業者側の人材確保が難しいということで、なかなか施策が思うように進まないということで住民の方も困った感が非常にあるということです。お互い利用すべき方とサービスを提供すべき方のバランスがうまくいくように今後の施策の中で何か考えていただけたらと思います。以上です。

○林委員長 ありがとうございます。人材確保についてということですね。

では、杉本さん、いかがですか。

○杉本委員 教育の分野で参加させていただいております。まず、アンケートにつきましては、皆さんからいろいろ御質問や御意見が出まして、私のよくわからないところも解消したかなと思っております。

その中で一つだけ気になるというか、高校生と大学生のアンケートの中に「鳥取市が閉鎖的」というような文言がありまして、閉鎖的なので鳥取以外のところに出たいということで、その文言がどうして使われているのかなというようなことを思っています。私は、ずっと教育の現場で携わってきましたときには、確かに鳥取は小さなまちではあるんですけども、鳥取市の教育のビジョンにもありますように、ふるさとを愛しというようなところで鳥取のよさとか、アットホームなところでありまして、いろんな自然とか人材があるというようなことを教育の現場では伝えてきております。子どもたちが大人になっていく過程の中でどういうふうに捉えていってくれるのかなというところは私もすごく気になるころではありますが、「閉鎖的」という言葉を使う必要があるのかな、はてなというようなところはありますので、また教えていただけたらと思います。

もう1点、先月、私、機会がありまして、日本遺産になられた麒麟のまち圏域についてのお話を市の文化交流課の職員さんから直接お話を伺う機会がありました。鳥取駅の正面にも大きな麒麟の看板がありまして、ずっと耳にはしていたんですが、具体的にどういうものなのかというのがいま一つよくわからなくて、非常に楽しみにしていたお話でした。本当にいろんな御苦労や地域を何とかよくしたいというような思い

でこの日本遺産の登録が令和元年度に登録になられたということで、非常に喜ばしいことだなと思って、一市民としても大変期待をしております。今後、このアンケートにも新規設問ということで1項目入っておりますけれども、これからの総合戦略と麒麟のまちというような分野とがどのようにかかわっていくのか、それは教育の分野であったり、人づくりであったり、文化伝承であったりというようなところ、いろんな分野に及ぶのではないかと思いますけれども、非常に熱い思いをそのお話の中で感じさせていただきましたので、今後も応援していきたいと思っております。以上です。

**○林委員長** では、田中さん、いかがですか。

**○田中委員** アンケート結果の5ページの満足度と重要度のところで、おもしろい表をつくっていただいて、とてもわかりやすかったのですが、その中でやっぱり福祉に携わる身といたしましては、子育て分野が施策の重要度としてはちょっと低くて、改善分野ということになっているのが気になります。やはりアンケートの回答者の構成から判断するとちょっと右上の座標のほうに移動して考える必要があるのかなというふうに捉えております。

それと一番下の、先ほど小谷委員がちょっと触れられたんですけども、自治会などの地域活動で維持改善分野ということに入っているんですが、やはり自治会の組織率の低下というのは大変大きな問題になっている中で、実は大変重要だけれども、重要度は市民に理解されていないという捉え方もできるのかなと思っております。ですから維持していただくだけではなくて、やはり重要なものは重要と理解していただくような取り組みも必要なのかなと感じております。

それと若い方々が鳥取に魅力がないというようなことで県外に出てしまうという回答もあったんですけども、やはり人口の減少というのは大きな課題で、それによってだんだん公共交通も含めて魅力は低下していているという現状はあるなと思っております。やはり若者の流出防止ですとか、産み育てる環境の充実とか、それと切り切って海外人材の活用とか、そういったところに思い切った施策が必要なのかなとも考えました。

それと公共交通機関のところで、地域交通がだんだん運転手さんも少なくなる中で難しくなっているということで満足度が減っているという回答があったんですが、高速交通というんですか、広域間の交通の便もやはりあるのではないかなと思っておりますので、例えばJRですとか、飛行機が東京便で高いとか、そういったこともある

と思いますので、やはり高速交通の充実とか、そういったことも配慮していただければなと感じたところです。以上です。

○林委員長 いろいろ提案ということによろしいですかね。

○森本委員 自治会から来ています森本でございます。私、湖南地区、湖山池南岸から鹿野までの山道が湖南地区になりますけれども、地区の課題としまして、いろいろ課題があるわけですが、一番の中山間地、あと湖東も同じだと思うんですが、農業問題、農業の後継者、人口の減少、湖南地区に大体年間400人ぐらい、ここ20年、ですから1年に40人ぐらいずつずっと減少してきた格好です。前は3,500余りあったのですが、この前、6月現在かな、2,000ちょっとぐらい。すぐこれは来年2,000を切るのではないかなと。少子高齢化が進んで、老人が多いと。

農業問題を取り上げるというのは、要は耕作放棄地が徐々に増えてきているんです。それで私たちの集落、地区も多面的機能とか、中間管理機構とか、いろいろ意見を聞きながらやってきたんですが、今、農業やるのにお金がかかるんです。ですから今やっている年金生活者は農業がやっていけない。要は、中山間地は小農が多いんです。多くても3町、少ないのは大体1町前後の田んぼをつくっている。これが今、機械化されてきたけれども、資金がない。私たちは機械が壊れたらもう農業をやめるといふ人がかなり数がふえてきているんです。

ですから、中山間地の実情というものをアンケートをとっていただいて、都市部と中山間地とはかなり違うと思う。鳥取市は広くなったんです。都市部というか平野地、都市部の考えと中山間地が対象になっている考えと大きな開きがあるのではないかな。鳥取市が新しくなって何年にもなるんですけれども、自治連で会長さん等と話をしてみるのに、要は扱いが全然違うわけです。旧市と新市との公民館のあり方、自治会のあり方、全然違って、統一がとれていない。それを市が考えておられるのは、まちづくりを地区の人でやってくださいと、公民館のあり方を考えてくださいと、いろいろ課題はいただいているんですけれども、てんてんばらばらの実情の中でどうやってそれをやっていくかと、その地区に合ったまちづくりをなさいと言われるんですが、なかなかそれはままならないといういろいろな意見が出ています。高齢化が進んで、役のなり手が少ない。大体70歳ぐらいまで働かれるということになってくれば、あと70歳以上が地区の役をすると。一番困るのが、要は公民館長の推薦、これは地区に来るんです。それから不法投棄の推薦、それから安全管理者と、いろいろなことをやられ

る人の推薦は地区が推薦するんですけれども、その人材に困るといふうな地区をちらほら、半ば会長さんが行きます。ですからこういうアンケートとられて鳥取市の計画を立てられるのであれば中山間地にアンケートをとっていただいて、要は周辺地区が活性化すれば鳥取市自体も活性化すると思います。私、今75歳になりますが、中学生のときはバスが鈴なりで満員通過、誓文払いだ、年末だとなるというともうバスが満員で、バスに乗れないぐらい人が中山間地にいたんです。それが今、中山間地にいない。バスを利用しない、バスは廃止になるということになってきますので、できれば中山間地の活性化を考えていただければ鳥取市の町なかも活性化してくるのではないかなと思います。ですから、できればこの計画の前に中山間地にアンケートをとっていただいて、中山間地がどんな実情かということをしっかり把握していただきたいなと思います。以上です。

○林委員長 ありがとうございます。それでは、山根さん、お願いします。

○山根委員 このアンケートを見ましての感想を一言述べさせていただきたいと思います。「住みたい田舎ランキング」で、鳥取市が全国1位ですよ、今まで。それがこのアンケートを見ますと、若い人は住みたくないという人が多い。その辺はなぜなのかなと思うところ、この辺のギャップはどうしてなのかということちょっと考えていただきたいなというのが1点と、それから5ページで住みやすさの重要度、私もいろいろ地域で活動している者といたしまして、いろいろな重要度、男女共同参画だとか、いろんなことが下のほうになっております。このアンケートの結果だけで次の11次総合計画に進まれてもいけないのではないかなということをおもいましたので、一言言わせていただきました。

○吉田（雅）委員 まずは本当にアンケートを1,600以上の回収などをしていただきまして、ありがとうございます。

その中でアンケートの今、分析をされているんですけれども、委員さんの中でもアンケート一つで例えばどうやったら回収率が上がるかという御意見もありますし、都会に比べたら答えて高いほうじゃないかということもありますので、受け取られる方で本当にこの数字の意味合いというものは変わってくると思います。対象者が誰から抽出しても反映されるようなアンケートというものを今後つくっていただきたいなと思います。26年度から改善されたアンケートだと思いますので、そちらをまた5年後のアンケートに反映させていただきたいと思いますし、アンケートをとるだけではな

くて、その後につながる、計画されるということですので、そちらも考えていただきたいと思います。

青年経済団体の立場から言わせてもらいますと、鳥取市には青年経済団体が当会以外にも大きな団体でいますと4つあります。全部で5団体が大きな団体ということで、その中で大体30代、40代の会員さんが400社近く集まっております。各団体でさまざまな活動をしておりまして、もちろん会社の経営のことであったり、鳥取市の住みよいまちづくりということもあるのですけれども、もっと我々の団体を巻き込んでいただいて、一団体一団体ずつが動くのではなくて、30代、40代の人間400人集まればいろんな知恵も出せると思います。行政の方々にも会員さんがいらっしゃいますので、どんどんどんどん我々を使っていただいて、こういうことをやってほしいというものを投げかけていただいたらいろんな協力ができると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

**○林委員長** ありがとうございます。とてもすばらしい、自分たちも巻き込んでほしいという積極的な御意見をありがとうございます。

それでは、今いろいろな御意見が出たんですけれども、質問では、杉本さんから閉鎖的の文言があるということについて、なぜ入れたのかという御質問でした。それから麒麟のまちがどのような形でこの計画の中にかかわるのかというようなことですかね。

**○杉本委員** それは今後楽しみにしています。

**○林委員長** 今後でよろしいですか。

**○杉本委員** はい。

**○林委員長** それから中山間地区向けのアンケートをとってもらえないかという、この2点が御質問という形だったように思いますが、いかがでしょうか。

**○塩谷政策企画課長** 事務局です。まず、杉本委員さんの閉鎖的という言葉が使っているけれどもというところです。高校生のアンケートでいくと、例えば4ページです。

「鳥取が閉鎖的であり、もっと広い世界で活躍したいため」というようなところで閉鎖的という言葉を使っているがというところですが、その次に続く「もっと広い世界で」というところがあるんですけれども、やはり鳥取という狭い世界というか、狭い範囲でというのではなくて、もっと広い世界で活躍したいためというそういった、その前段に閉鎖的という言葉を使っているというところですので、ここは改

善できるのかなと思っております。

それから中山間地域の実情把握のアンケートということでございますが、こちらは検討させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○林委員長 今回のアンケートについて、まだまだ分析が不十分ではないかと、それから非常に年齢層が偏った形になっているので、それをもとに分析していくと少し十分な実情の把握ができないのではないかとということが根本にはあったように思います。

特に5ページのところの重点改善分野とか改善分野もそのもとのデータからしているので、必ずしも若い方の意見が十分反映された形になっているのかどうかというところは多分御心配のところだと思います。

ぜひ次のアンケートには、もう少しこういうところの意見も入れていただいた形でアンケートを組み立てていただいたほうがいいのかと私自身も思いました。

## (2) 今後のスケジュールについて

塩谷政策企画課長が資料3にもとづき説明し、委員からの質疑はなかった。

## 7 その他 事務局より事務連絡

## 8 市長あいさつ

長時間にわたりまして委員の皆様から御意見、御提言をいただきましたことに心より感謝を申し上げます。

アンケートの話も各委員さんからいただきました。4,000人の無作為抽出で1,672、41.8%ということで、この種のアンケートでは大体母集団の傾向をあらわす、そのような回答率であり、サンプリング抽出ではなかったかと思いますが、御意見をいただきましたように、もう少し精緻な分析や分類等々行っていくべきではないかと、中山間地域等別というようにお話もいただきました。次回のアンケートでは、本日いただきました御意見をもとに工夫をさせていただきたいと思っております。

この委員会、また新年度になりましたら4月、5月のあたりに開催をさせていただくということでお願いをさせていただいたところでありまして、市民の皆さんのワーキンググループ、またいろんな形で御提言をいただきたいと思っておりますし、旧合併地域といいますか、新市域におきましては地域振興会議でもいろんな御議論をいただきたいと

思っております。また、こちらが市民の皆さんのところに出かけていくストリートミーティング等もやりたいと思っておりますし、いろんな形で御意見、御提言をいただきたいと思っております。

最終的にはちょうど1年後になりますが、議会の議決案件になりますので、この第11次総合計画の基本構想、10年間にわたるものでありますが、これは1年後の2月定例市議会で上程をして御審議をいただき、議決をいただきたいと考えております。

令和3年からスタートするわけでありますけれども、人口減少や少子高齢化が少しずつ進んでおります。大変困難な状況の中にあると思っておりますけれども、ここが正念場だと思っております。

2025年問題と言われておりますが、この期間中に2025年もやってくるわけでありますし、2040年には団塊ジュニアの世代の皆さんが65歳、高齢者になられます。これは鳥取市はもとよりであります、国を挙げての非常に大きな課題であります。そういった中で鳥取市が力強く前進をしていく、そのような今まさにスタートの時期にあると思っております。そういった思いを込めて新年度予算も編成をさせていただいたところがあります。

今週21日には市議会も開会となります。議会でも御審議をいただくこととなっておりますが、これからもこの総合企画委員会の委員の皆様いろんな御意見、御提言をいただきながらしっかりした基本構想、基本計画、また創生総合戦略を策定していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

まとめになっておりませんが、御礼の御挨拶にかえさせていただきます。本日はありがとうございました。

## 8 閉会